

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010 年 4 月 1 日を以って NEC エレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010 年 4 月 1 日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

M32C/84,85,86,87,88 グループ

タイマ A 動作（パルス幅変調モード、8 ビット PWM）

1. 要約

任意の周期、任意のH幅のパルスを連続で出力するモードです。PWM出力の立ち下がり時に割り込み要求が発生します。

PWM の “H” 出力幅 = (タイマレジスタの上位 8 ビット値) × (タイマレジスタの下位 8 ビット値+1) ×
タイマのカウントソースの周期

PWMの周期 = $(2^8 - 1) \times$ (タイマレジスタの下位 8 ビット値+1) ×タイマのカウントソースの周期

f1 = 32MHz、fC = 32.768kHz

カウントソース	カウントソースの周期	H 幅	PWM 周期
f1	31.25ns	31.25ns～2.032ms	約 7.97us～2.04ms
f8	250ns	250ns～16.256ms	約 63.75us～16.32ms
f2n(n = 15)	937.5ns	937.5ns～60.96ms	約 239.1us～61.2ms
fC32	約 0.977ms	約 0.977ms～63.5s	約 249.0ms～63.75s

2. はじめに

この資料で説明する応用例は、次のマイコン、条件での利用に適用されます。

- ・マイコン : M32C/84 グループ
M32C/85 グループ
M32C/86 グループ
M32C/87 グループ
M32C/88 グループ

上記マイコンと同様の SFR(周辺機能制御レジスタ)を持つ他の M16C ファミリでも本プログラムを使用することができます。ただし、一部の機能を機能追加等で変更している場合がありますのでマニュアルで確認してください。このアプリケーションノートをご使用に際しては十分な評価を行ってください。

3. 応用例

ここではカウントソース f8 で周期 10.20ms、TAiIN 端子に立ち下がりエッジが入力された時に、“H”幅 1.00ms の PWM 出力を行う方法について示します。

3.1 応用例の説明

- (1) TABSR レジスタの TAI_S ビットが “1”（カウント開始）の状態では TAIIN 端子の入力信号が “H” から “L” になると、カウンタはカウントソースをダウンカウントします。
TAiOUT 端子の出力レベルが “H” になります。（注）
- (2) TAIOUT 端子の出力レベルは、設定した時間を経過すると “H” から “L” になります。
同時に TAIIC レジスタの IR ビットが “1”（割り込み要求あり）になります。
- (3) PWM パルスを 1 周期出力するごとに、リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを続けます。
- (4) TAI_S ビットを “0”（カウント停止）にすると、カウンタはカウント値を保持して停止します。そのとき TAIOUT 端子の出力が “H” の場合、タイマ出力は “L” になり、IR ビットが “1” になります。TAiOUT 端子が “L” の場合出力は変化せず、割り込み要求も発生しません。

タイマ Ai レジスタの上位 8 ビットに “00h” を設定した場合は、パルス幅変調器は動作せず、TAiOUT 端子は “L” レベルを出力し、タイマ Ai の割り込み要求は発生しません。

（注）トリガ発生後、TAiOUT 端子は設定した PWM パルスの “H” レベル幅と同じ幅の “L” レベルを出力し、その後、PWM パルスの出力を開始します。

図 1 に動作タイミングを示します。

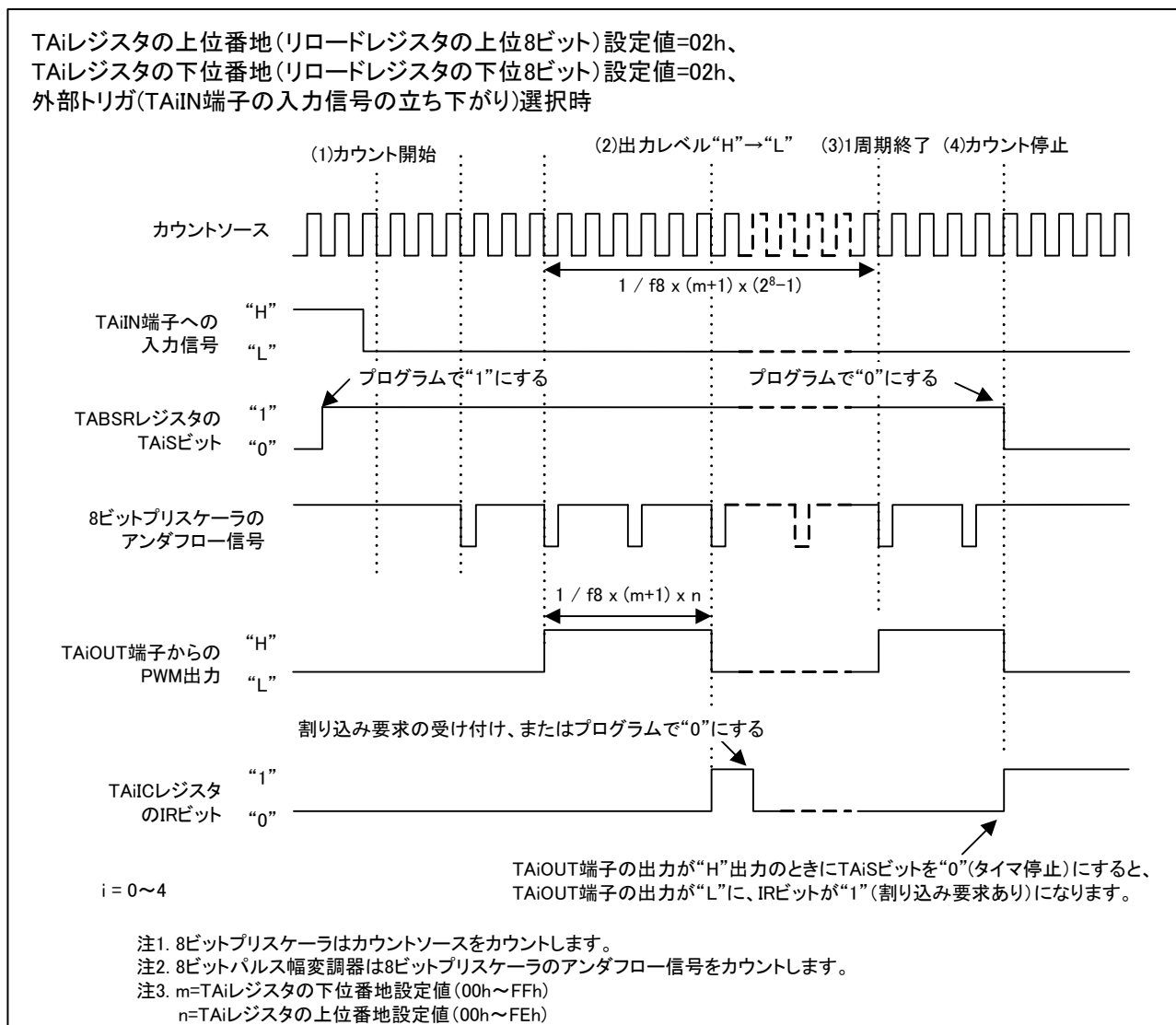


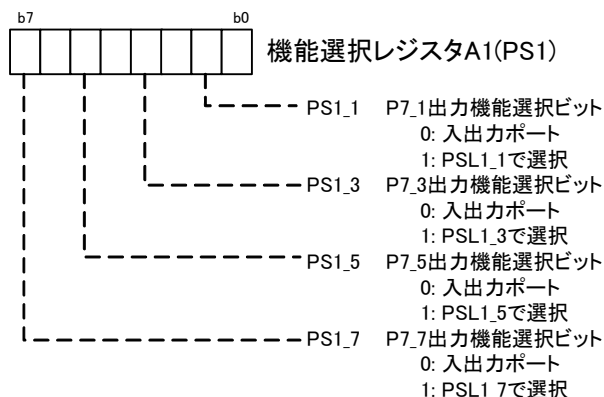
図 1. パルス幅変調モード、8 ビット PWM の動作

3.2 設定方法

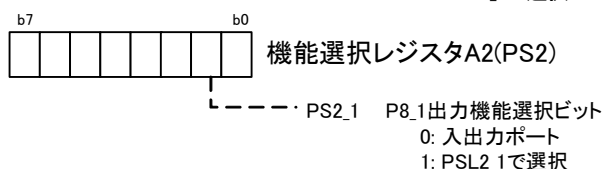
「3.1. 応用例の説明」を実現するための設定手順と設定値を示します。各レジスタの詳細は各マイコンのハードウェアマニュアルを参照ください。

(1)機能選択レジスタの設定

TAiIN端子はP7_1(TA0IN)、P7_3(TA1IN)、P7_5(TA2IN)、P7_7(TA3IN)、P8_1(TA4IN)に割り当てられています。機能選択レジスタで入出力ポートを選択してください。



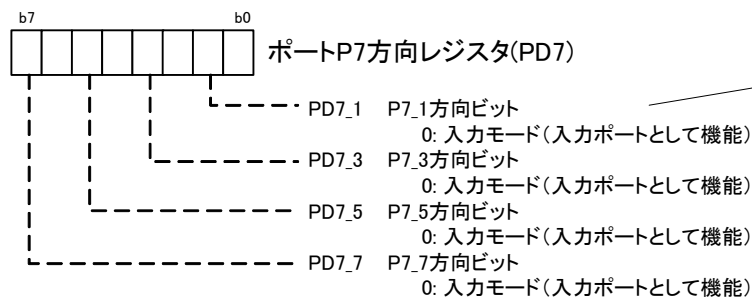
TAiIN端子として使用する場合、“0”(入出力ポート)にしてください。



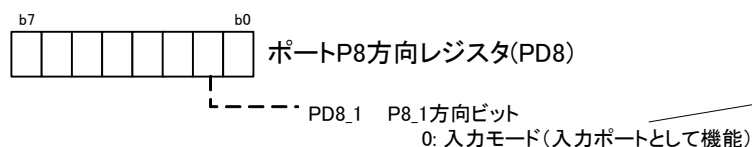
TA4IN端子として使用する場合、“0”(入出力ポート)にしてください。

(2)ポートP7、P8方向レジスタの設定

TAiIN端子として使用する端子を入力ポートにしてください。



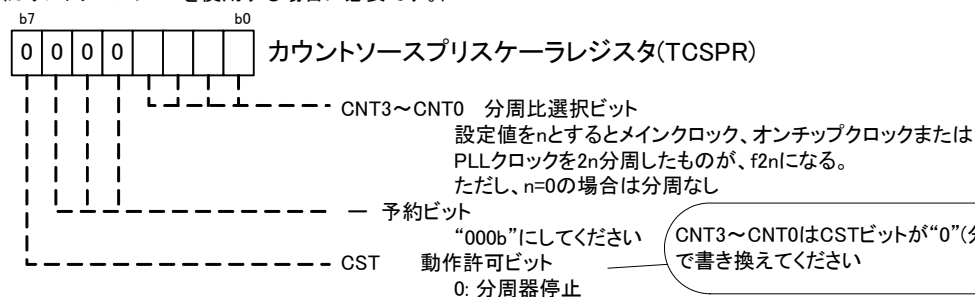
TAiIN端子として使用する場合、“0”(入力モード)にしてください。



TA4IN端子として使用する場合、“0”(入力モード)にしてください。

(3)カウントソースプリスケアラレジスタの設定

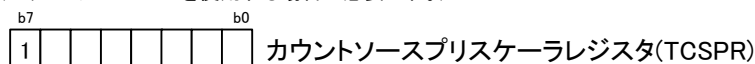
(カウントソースにf2nを使用する場合に必要です。)



CNT3~CNT0はCSTビットが“0”(分周器停止)の状態書き換えてください

(4) カウントソースプリスケアラレジスタの設定 (分周器動作)

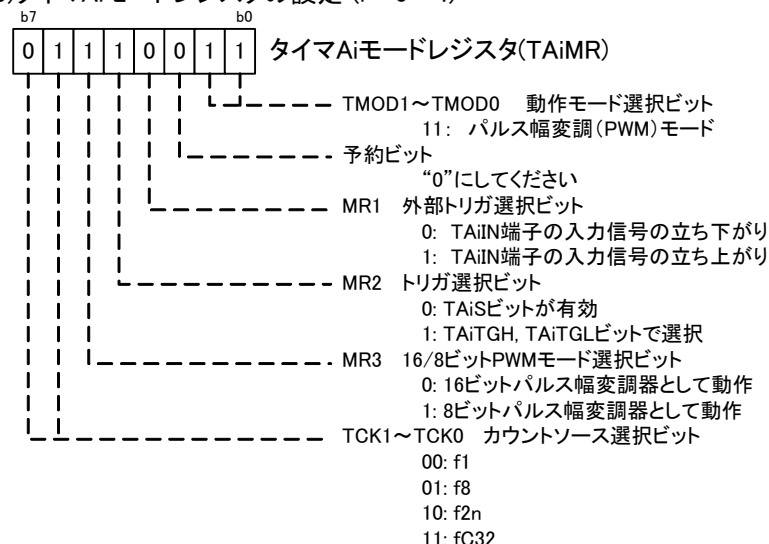
(カウントソースにf2nを使用する場合に必要です。)



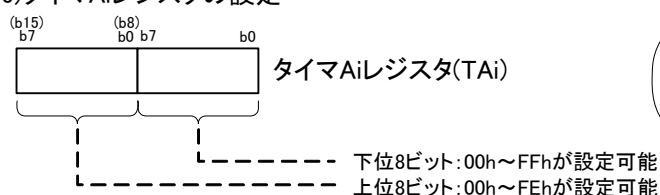
CST 動作許可ビット
1: 分周器動作

CNT3～CNT0を設定してから、CSTビットを”1”
(分周器動作)にします。

(5) タイマAiモードレジスタの設定 (i = 0～4)

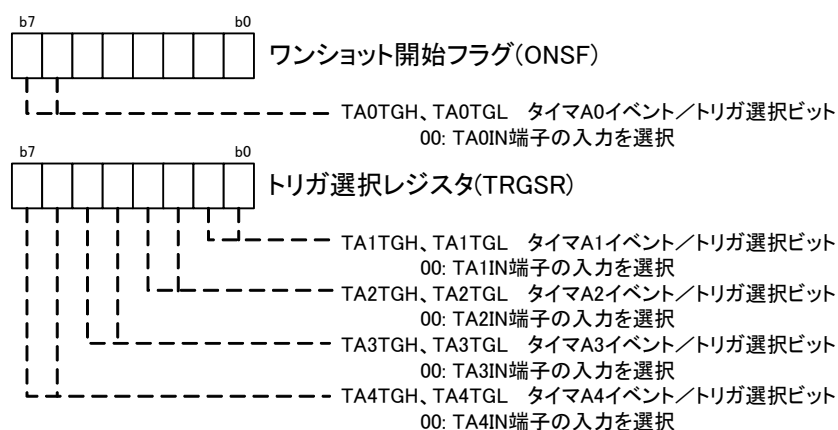


(6) タイマAiレジスタの設定



上位8ビットに00hを設定した場合、
パルス幅変調器は動作せず、
TAiOUT端子は“L”レベルを出力し、
タイマAi割り込み要求は発生しません。

(7) ワンショット開始フラグ、トリガ選択レジスタの設定



(8)割り込み要求ビットのクリア

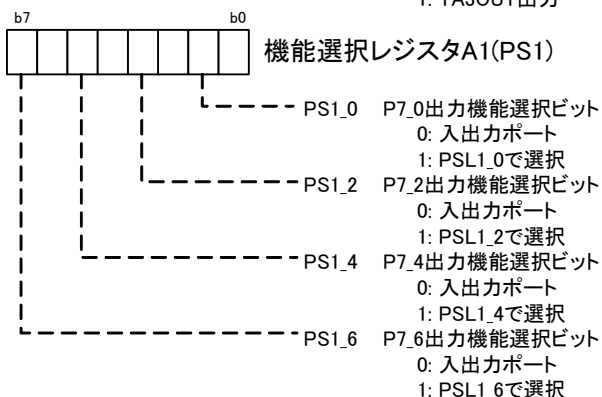
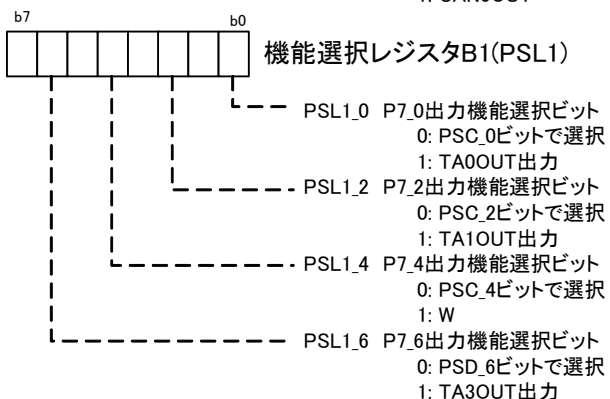
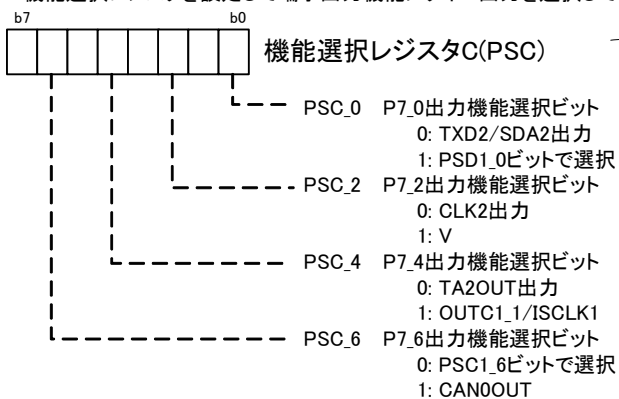


IR 割り込み要求ビット
0: 割り込み要求なし

TAiMRレジスタのTMOD1～TMOD0ビットを“11b”（パルス幅変調モード）に変更したとき、IRビットが“1”（割り込み要求あり）になることがあります。TMOD1～TMOD0ビットを設定した後、IRビットをクリアしてください。

(9)機能選択レジスタの設定

タイマA出力端子はP7_0(TA0OUT)、P7_2(TA1OUT)、P7_4(TA2OUT)、P7_6(TA3_OUT)、P8_0(TA4OUT)に割り当てられています。機能選択レジスタを設定して端子出力機能にタイマ出力を選択してください。

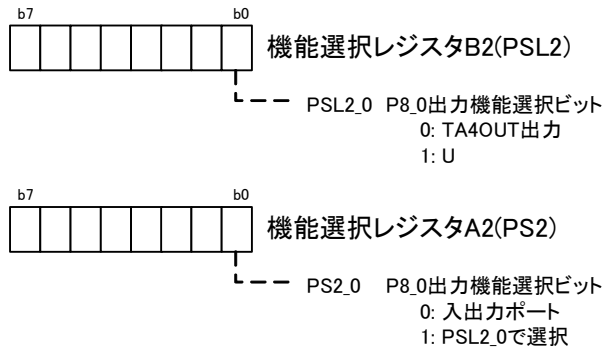


P7の機能選択はPS1レジスタ、PSL1レジスタ、PSCレジスタで選択します。TAiOUT端子(i=0～3)を出力機能で使用する場合は次の通りです。

端子	ビットと設定値		
	PS1レジスタ(注2)	PSL1レジスタ	PSCレジスタ
P7_0(TA0OUT) (注1)	PS1_0=1	PSL1_0=1	PSC_0=0
P7_2(TA1OUT)	PS1_2=1	PSL1_2=1	PSC_2=0
P7_4(TA2OUT)	PS1_4=1	PSL1_4=0	PSC_4=0
P7_6(TA3OUT)	PS1_6=1	PSL1_6=1	PSC_6=0

(注1)P7_0(TA0OUT)端子はNチャネルオープンドレイン出力です。

(注2)ビットの設定順はPS1レジスタを最後に設定してください。

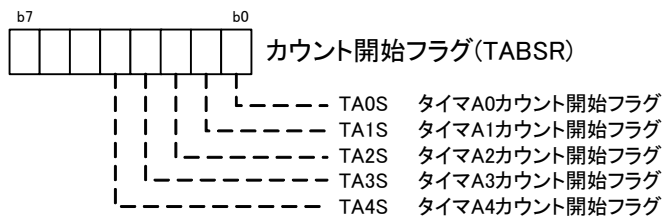


P8の機能選択はPS2レジスタ、PSL2レジスタで選択します。
TA4OUT端子を出力機能で使用する場合は以下の通りです。

端子	ビットと設定値	
	PS2レジスタ(注3)	PSL2レジスタ
P8_0(TA4OUT)	PS2_0=1	PSL2_0=0

(注3)ビットの設定順はPS2レジスタを最後に設定してください。

(10)カウント開始フラグの設定



4. 参考プログラム例

参考プログラムは、ルネサステクノロジホームページから入手してください。M16Cファミリのトップページの画面左メニュー「アプリケーションノート」をクリックしてください。

5. 参考ドキュメント

ハードウェアマニュアル

M32C/84 グループハードウェアマニュアル

M32C/85 グループハードウェアマニュアル

M32C/86 グループハードウェアマニュアル

M32C/87 グループハードウェアマニュアル

M32C/88 グループハードウェアマニュアル

（最新版をルネサス テクノロジホームページから入手してください。）

テクニカルアップデート/テクニカルニュース

（最新の情報をルネサス テクノロジホームページから入手してください。）

ホームページとサポート窓口

ルネサス テクノロジM16Cホームページ

<http://japan.renesas.com/m16c>

ルネサス製品全般に関するお問い合わせ先

<http://japan.renesas.com/inquiry>

E-mail : csc@renesas.com

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2006.05.18	-	初版発行

安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご注意ください。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切なルネサス テクノロジー製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてルネサス テクノロジーが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、ルネサス テクノロジーは責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス テクノロジーは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ルネサス テクノロジー半導体製品のご購入に当たりましては、事前にルネサス テクノロジー、ルネサス販売または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ルネサス テクノロジーホームページ(<http://www.renesas.com>)などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したものです。万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ルネサス テクノロジーはその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。ルネサス テクノロジーは、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、ルネサス テクノロジー、ルネサス販売または特約店へご照会ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書によるルネサス テクノロジーの事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気づきの点がございましたらルネサス テクノロジー、ルネサス販売または特約店までご照会ください。